かまだに
神谷サイフォン

神谷サイフォンは、久米南町の北庄にあり、水の少ない山の上の水田に水を引くための重要な管水路です。

命の水で潤いの水田に

誕生寺地区は山の上の方まで水田が開かれ、サイフォンによって大きなため池から水が来るようにしてあります。

もともと、誕生寺地区は水が少なく、北庄の農家では、ふろやすいじの水、茶わんの水でもみんな水田に入れるようにしていました。このようにしても毎年のように日照りで稲ができず悩んでいました。

このころ、誕生寺地区の南庄に住んでいた福田久治さんは、水田の少ない誕生寺地区に、なんとかして水田をひろげようと考え、野原や山など水田にできそうなところはすべて水田にすることにしました。

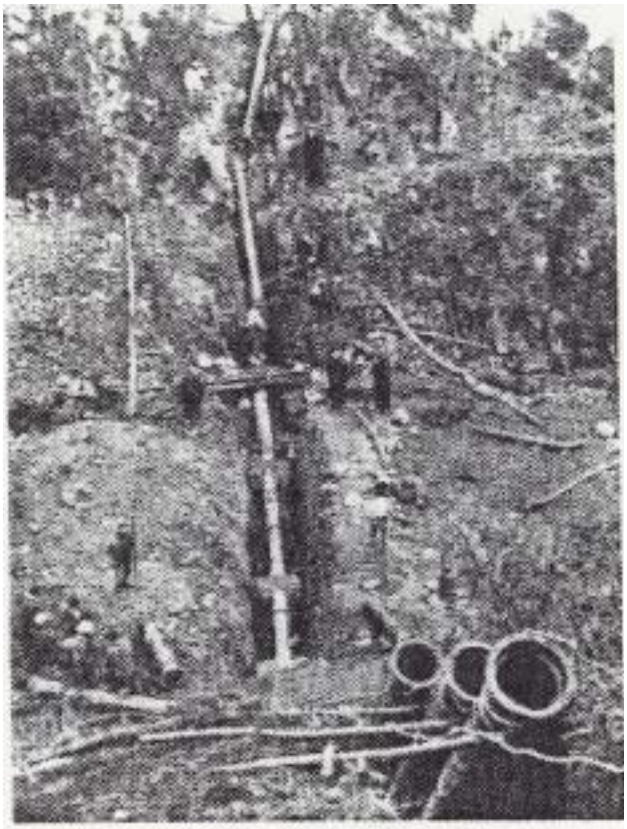
しかし、山の上には川もなくため池も作れないところが多く、水をどのようにして引くかが大問題でした。

いろいろ考えたすえ、高いところにため池を造り管水路を使って谷の底を通じ、水を向うの山の上まであげるようにすることにしました。

この方法をサイフォンといいます。

当時の工事の様子

神谷サイフォンの建設



サイフォンの工事（神谷池）

水のひけない山の上に水を引くために３４か所のサイフォンを造りました。一番高いものは神谷川をくぐって造った４６ｍのものです。上から底まで４６ｍものサイフォンは日本では他に例がありませんでした。サイフォンに使う鉄管は大阪に注文して作ってもらい、また土管は特別に厚く強いものを使いました。鉄管はなまりをうちこんでつなぎ、土管はセメント(注)でつなぎました。そして、水圧のかかる所は土管の上に鉄線をまいて、さらにコンクリートでつつみ、はれつしないようにしています。このサイフォン工事によって、山の上に造ったどの水田にも水が引けるようになりました。

（注）水圧（すいあつ）
水の圧力のこと。
神谷のサイフォンの底に穴があくと
４６ｍのふんすいがあがります。

大正１３年に工事がはじまり、じつに１２年間もかかって昭和１１年に完成しました。この工事は、日本でも４番目の大工事で、日本だけでなく台湾や朝鮮からも見学者が訪れました。この工事により誕生寺はすばらしいいね作りの村に変わりました。水田はいっ

（注）俵（ひょう）
お米の量を表す単位。
１俵は６０ｋｇ

神谷サイフォンを通って池から池に水が流れた。

神の渕池から初めて
寿恵元池に水が入った時

きょに２倍にふえ、水の心配もなくなり、米は７千俵(注)も多くとれるようになりました。

また不便だった道路も整備され、農作業が楽にできるようになりました。農家の人たちは今もむかしの人たちが作ったため池や水路を直したり、そうじをしたり、また水当番を決めて水を配分し、いね作りの水に困らないようにしています。

現在も大切に守られている「日本 棚田百選」の一つ北庄の水田

引用文献：「わたしたちの久米南」　久米南町